

「自然体験活動指導者養成研修」

1 趣旨

農山漁村における農業体験や自然に親しむ体験活動等の教育的効果を高めるとともに、青少年が安心・安全に体験活動を実施できるようにするため、自然体験活動の指導者を養成する。

2 ねらい

- ・自然体験活動の全体指導者として、必要な知識や技能を養う。
- ・研修内容や参加者同士の交流を通して、全体指導者としての自覚を高める。

3 日程

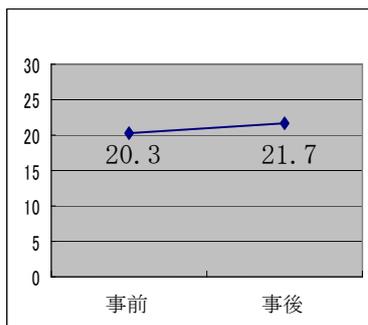
- (1) 期 日 平成23年10月8日(土)～10月10日(月)【2泊3日】
- (2) 参加者 44名(大学生43名、社会人1名)
- (3) 研修内容及び講師

10月8日 (土)	午前	○受付9:30・開講式9:45 ○講義「学校教育における体験活動の意義」 講師：福井大学 宗倉 啓
	午後	○講義・演習「体験活動の指導法：アイスブレイク」 指導：交流の家職員 ○実習「自然体験活動の技術：スコアオリエンテーリング」 指導：交流の家職員 ○講義・演習「体験活動の指導法」 講師：金沢学院大学 山脇 あゆみ ○講義・演習「体験活動の指導法：ラボラトリー方式の体験学習」 指導：交流の家職員
10月9日 (日)	午前	○講義「安全管理」 講師：福井大学 水沢 利栄
	午後	○実習「自然体験活動の技術：野外炊飯」 指導：交流の家職員 ○講義「教育課程と体験活動の関連性」 講師：富山大学 松本 謙一 ○講義・演習「プログラムの企画立案」 講師：富山大学 松本 謙一
10月10日 (月)	午前	○講義・演習「プログラムの企画立案（グループ発表）」 講師：富山大学 松本 謙一
	午後	○実習「救命救急法」 講師：羽咋消防署 ○閉講式16:40

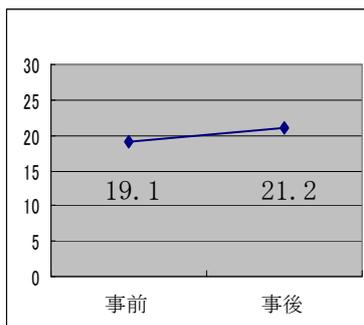
4 成果と課題

(1) 事前・事後アンケートによる事業評価

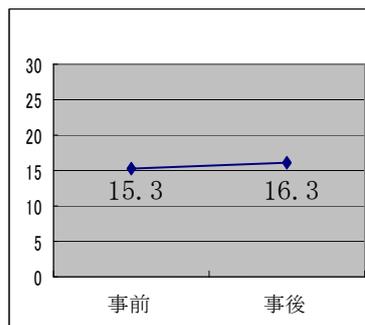
事業評価を目的とし、参加者44名を対象に調査を実施した。有効回答数は36名分である。調査項目は、事業の趣旨を踏まえ、参加者の事業前後における①能動的実践的態度や②自己の創造・開発、③自他共存の変化について測定することができる「生き方尺度」の28項目を使用した。そして、領域ごとに事業前後の合計点の平均値を算出して比較し、下記のグラフで示した。



①能動的実践的態度



②自己の創造・開発



③自他共存

その結果、すべての領域において、平均値の向上が見られた。また、①・③は1%水準で、②は0.1%水準で有意差が認められた。

平均値が向上した理由について、この研修のまとめとして設定した「プログラムの企画・立案」が、参加者同士でグループになって検討し、さらに検討したプログラムを模擬授業形式で一人一人が教師役・児童役となって進めたからであると考えられる。

[参考引用文献]

堀 洋道・吉田富二雄、心理測定尺度集Ⅱ人間と社会のつながりをとらえる<対人関係・価値観>、サイエンス社 p417-421

(2) 成果と課題

《成果》

- ・教員志望の参加者が多く、研修内容を将来に向けて生かせるようにも配慮したことで、参加者の満足度は高かった。
- ・これまでの研修内容を見直し、新たなプログラムを考えて実施することができた。また、その効果を把握することができた。

《課題》

- ・「プログラムの企画・立案」は、有意義な内容であったものの、時間が足りなかった。限られた時間内に終わらせるために、ある程度条件を与えて工夫する必要がある。
- ・この研修の修了者が、さらに意欲や技能を高められるために、活動できる場（学校団体が利用している際の補助役）や研修できる機会を検討する必要がある。



実習『自然体験活動の技術：スコアオリエンテーリング』



講義・演習『プログラムの発表』